

獨協大学 ニュース

DOKKYO UNIVERSITY
NEWS

4

2020

VOL.467



新入生の皆さんへ

獨協大学学長
山路朝彦

(やまじ・あさひこ)



1953年生まれ。81年東京外国語大学大学院外国語学専攻修士課程ゲルマン系言語専攻ドイツ語専任講師、90年外国語学部助教授、01年外国語学部教授。本学における役職歴は、94～96年外国語学部教務主任、97～01年学長室委員、03～07年学生部長兼敬和館長、08～12年教務部長、12年～19年副学長兼総合企画部長および獨協学園理事。20年4月1日より学長に就任。

難関を超えて入学した
皆さんを心から歓迎します

今年度の新入生の皆さんは大変な苦労をなさったことと思います。新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために、高校が一斉休校となり、年度末に予定されていた様々な学校の行事が唐突に中止になりました。先生方、クラスの友達との突然の別れが訪れ、卒業式も行われないままに高校を巣立たざるを得なかった方もいるでしょう。

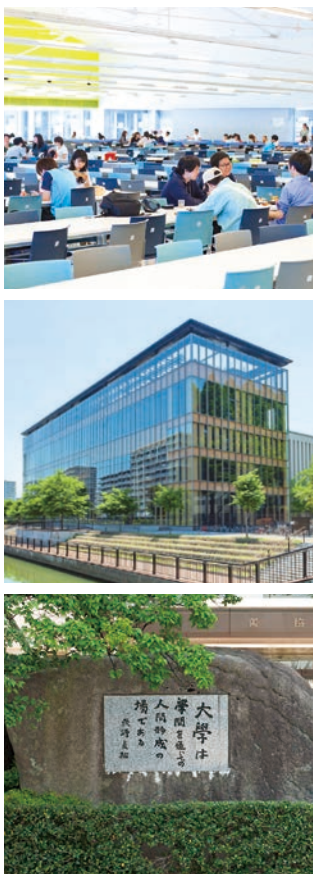
それ以前に、皆さんはここ数年続いている私立大学の合格者絞り込みの状況の中で、志望校を選ぶのにも苦労されました。直接は関係しないにしても、来年から、これまでの大学入試センター試験が大学入学共通テストと名前を変え、内容も記述式問題の導入が計画され、一昨年度はプレテスト(試行試験)まで行われました。また英語では英検やTOEFLなどの民間テストが活用されると言われ、各大学は具体的な利用方式まで発表していました。いずれも見送られたわけですが、こうした大学入試改革の混乱、錯綜する情報に不安を抱かざるを得なかった

ことでしょう。さらに、入試シーズンになって急に新型コロナウイルスの感染拡大が追い討ちをかけ、受験に大きなハードルが課されてしまいました。

私たち獨協大学の教職員はそれらの状況をよく承知しており、難関を超えて入学してきた皆さんに心から敬意を表し、歓迎いたします。本学では入学式も中止をせざるを得ませんでしたが、皆さんのより良い学びのために今後は全力でサポートして参ります。獨協大学は教育力に定評のある大学です。これらの4年間、たとえ社会でどのような変化が起ころうとも、安心した学びの場を提供し続けます。

建学の理念
「大学は学問を通じての
人間形成の場である」

本学は、昨年で55周年を迎えましたが、建学時に掲げた理念を長い歴史の中で変わることなく堅持し続けてきました。大学の理念というのは、それぞれの大学が掲げる教育の目的であり、特に私立大学では常にそこへと



立ち戻り、自らの教育研究がそれに叶うものになっているか問い続ける大きな柱のことです。

獨協大学の理念は「大学は学問を通じての人間形成の場である」という創立者天野貞祐先生の言葉です。私自身、本学に就職が決まった時、この言葉を聞いて大変素晴らしいものだと思いました。この理念の背景にドイツで育まれた思想があり、明治時代にドイツの進んだ学問を学ぼうとした獨逸^{ドイツ}学協会学校の伝統を引く大学であることも瞬時に分からせるものだと感じたからです。ドイツの文学の中に「教養小説」と呼ばれるジャンルがあります。少年や青年が、住み慣れた故郷を離れ、旅に出て様々な経験を学んで、徐々に成長し、自己形成していくというストーリーです。人が経験、学びを通して、自分の中に可能性としてあったものを見出し、成長させ、自己を形成していくという考え方はドイツ理想主義以来の伝統的な考え方です。

天野先生は、かつての入学式の式辞で、皆さんを次のような人間に育てたいと述べられています。「良き意思」を持った人間、「思慮」を持つ人間、「豊かな情操」を持った人間、社会に役立つ「知識技能」を持った人間、そして「健康」な人間です。50年以上も前の式辞ですが、この理想は今も変わりがありません。現在のように混沌とした状況の中にあり、社会をさらに混乱させようという悪意ある情報すら飛び交う中であって、「良き意思」を持ち続けて行動でき、現実目の前にいる弱い立場の人たちへの深い思慮を持って行動することができる人間であり続けてください。そして、本学で知識技能を身につけて、それを社会で活かすことのできる独立

した人格を形成し、また、美しいものを愛でる豊かな情操を育んでください。何よりも、皆さんが身体的にも精神的にも、健康に4年間を過ごすことができるように支えて参ります。

学生と教職員が 共に学ぶ4年間

獨協大学は教育力に定評があると書きましたが、学生の皆さんと教員・職員の間がとてもし近い大学でもあります。皆さんにはクラスアドバイザーの先生がついて学修と共に学生生活の相談に乗ってくれます。教務課や学生課などの窓口では、これから大学でどのように学んでいけばいいのかについての履修相談や、奨学金のガイダンスを実施しています。図書館でのレファレンスカウンター、国際交流センターでの留学ガイダンス、その他、自ら学ぼうとする皆さんを支える支援体制は枚挙にいとまがありません。いずれの窓口でも親身な対応がなされることが本学の大きな自慢です。

最後に、皆さんはこれまで不安な数ヶ月を過ごしてきましたが、それ以上に心配な日々を送られたのは皆さんを見守ってこられた保護者の方々です。入試の動向に一緒になって目を配り、特に皆さんの健康には特段の注意を払ってくださいました。なかなかうまくは伝えられないかも知れませんが、入学を祝っていた機会などがありましたら、それに報いる言葉を伝えてあげてください。それでは、これから4年間、一緒に学んで参りましょう。

新型コロナウイルス感染症に関連する 本学の対応

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、本学では学生や関係者の安全を考慮し、感染予防のための各種措置を講じた。

本学の主な対応は以下のとおり(2020年3月25日現在)

- ・2020年度入学式・第53回卒業式・第42回大学院学位記授与式の開催中止
- ・新入生対象「プレシメント・テスト(TOEIC®IP)」中止、自宅で受験可能なオンライン・テストに変更
- ・図書館 高校生・予備校生への図書館開放中止、草加市中央図書館紹介状利用の停止、施設一部利用停止
- ・キャリアセンター 就職情報会社が開催する合同企業説明会の多くが中止や延期となったことを受け、就職活動中の学生のために万全の体制で窓口相談に対応
- ・ICZ(International Communication Zone)、自律学習支援スペースCLEAS 換気のため入口扉開放
- ・オープンカレッジ特別講座「世界を驚かせた北斎と『北斎漫画』」の開催延期
- ・クラブ・サークル 合宿、行事、試合原則禁止
密閉された空間での活動や、多人数での活動禁止
- ・教職員の渡航制限
- ・職員の臨時時差勤務の導入 など

新型コロナウイルス感染症の状況によって、変更等が生じる場合があります。
最新情報は大学ホームページ「緊急のお知らせ」を確認してください。

安間一雄言語文化学科教授が 学術研究顕彰を受賞

3月11日、2019年獨協大学学術研究顕彰表彰式が行われ、安間一雄言語文化学科教授が表彰された。

選考委員会は、安間教授が2019年3月14日から17日にハワイ大学マウイ校で行われた「IEEE 2nd International Conference on Information and Computer Technologies」で「Partial Scoring of Reordering Tasks: Maximal Relative Sequence by Excel(並べ替え問題の部分採点:エクセルによる最大相対連鎖法)」と題した研究発表を行い、Best Presentationを受賞したことを評価。安間教授には犬井正学長(当時)より、表彰状と祝金3万円が贈呈された。

獨協大学学術研究顕彰は、優れた学術研究成果を挙げ、学会等から賞を受けた本学専任教職員に対し、その功績を顕彰している。1999年から始まり、これまでに延べ14名が受賞している。



卒業式・大学院学位記授与式を中止

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、本学は第53回卒業式・第42回大学院学位記授与式の中止を決定した。卒業式および大学院学位記授与式の中止は異例のことで、東日本大震災の影響を受けた2011年以來となった。学内での学位記授与や祝賀会も、中止となった。こうした中、犬井正学長(当時)は、大学ホームページ上にメッセージを掲載。「常に世界の動きとともに、足もとにも目を向け、人生を先手、先手で積極的に設計し、逞しく生き抜いてほしい。それぞれの夢や希望をしっかりと持ち続け、自らを磨き上げて、やがて訪れるチャンスを確実に掴み取ってください」とエールを送った。

学位記取得者数および総代、副総代は次のとおり。

■学 士

学科	学位記取得者数	総代	副総代
ドイツ語学科	140名	木下 大斗	木村沙也加
英語学科	251名	田中 涼	多養 千鶴
フランス語学科	95名	猪瀬 美佳	武藤 彩華
交流文化学科	79名	大沼 歩実	酒井 直輝
言語文化学科	155名	田中 啓行	山崎 杏奈
経済学科	328名	金谷 美沙	清水 悠理
経営学科	335名	江本 愛華	鄭 睿敏
国際環境経済学科	135名	石井幸太郎	渡邊茉莉花
法律学科	259名	中嶋 悠人	浜名 梨緒
国際関係法学科	81名	大石 翔	寺山 由望
総合政策学科	82名	高倉万由子	金山 直樹
合計	1,940名		

■修 士

研究科	学位記取得者数	総代	副総代
外国語学研究科	6名	ハーウッド 美樹	清沢 菜穂

2020年度入試状況総括

2020年度の獨協大学入学志願者数が確定した。一般入試(センター利用入試を含む)の志願者総数は20,050人(前年度比80.3%)、前年度24,964人から4,914人減少した。昨年11月から12月にかけて実施した推薦・卒業生子女・弟妹・特別・社会人入試の志願者数は1,223人(前年度1,093人)で、一般入試と合計した志願者総数は21,273人(前年度26,057人)となった。志願者減の主な要因は、センター利用入試における大幅減によるものである。また、来年度から大学入試センター試験に代わり「大学入学共通テスト」が始まるため、今年中に入学したいという受験生の安全志向による出願で、前年度志願者が増えた本学への出願が回避されたものと考えられる。

原成吉入試部長は、「18歳人口の減少と私立大学の入学定員厳格化を背景として、受験生の大学選びはより一層慎重になりつつある。2021年度入試では受験生の視点に立った入試制度改革などを推進するとともに、改めて獨協大学の魅力を感じてもらえるようオープンキャンパスなどを通じて積極的にPRしていきたい」と語った。



2019年に行われたオープンキャンパスの様子

三宅レナさん(言4年)「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」に合格

文部科学省「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」第12期派遣留学生に、三宅レナさん(言4年)が採用された。三宅さんには留学準備金と奨学金(月額)が給付される。

三宅さんは、5月から「日系企業のビジネス現場における通訳の重要性」をテーマに来年3月までメキシコに留学する予定。初めの3か月はメキシコ国立自治大学付属の語学学校でスペイン語習得を目指す。その後、日本貿易振興機構(JETRO)メキシコ事務所にて2週間のインターンシップ、自動車部品を製造する日系企業で通訳業務のインターンシップを計画している。(※記載は採用時点の計画です)

三宅さんは将来、企業の通訳になることを目指している。今回の留学は、スペイン語を実践の場で使用することを目的の1つとしている。「2年生の時に、キャリアセンターの主催する業界セミナーに参加した。その時に説明してくださったJETROの方が、今回のインターンシップ受け入れの際にも各方面と調整してくださった。協力してくれた方々の厚意に報いるためにも、留学では様々なことを吸収したい」と意気込みを語った。

獨協大学英語教育研究会(DUETA) 第24回講演会を開催

2月15日、東棟E-311教室で、獨協大学英語教育研究会(DUETA)による第24回講演会が開催された。演題は「小学校外国語・外国語活動の今ー草加市の英語教育の実践から」。講師の小野陽子氏(草加市教育委員)は、2020年度より全面実施となる新学習指導要領を見据え、外国語教育の充実を推進している草加市の小学校での取り組みや中学校との連携を考えた授業について話した。その後参加者は、草加市語学指導助手の若月パトリシア氏とともに言語活動を実際に体験し、変わりつつある英語教育の現場について理解を深めていた。講演会には小中高の教員、本学在学生・卒業生を含め、学内外から約70名が参加した。

■獨協大学英語教育研究会(Dokkyo University English Teaching Association:DUETA)は、英語教育に携わっている本学の卒業生、または将来携わりたいと考えている本学の学生を始め、広く一般に英語教育に携わっている人、あるいは英語教育に関心のある人を対象とし、互いに交流を深めることを目的として活動している。



草加市の取り組みを説明する小野氏



来場者は模擬授業を体験した

澤田祥鷹さん(独4年)独検1級に1位で合格

よしたか
澤田祥鷹さん(独4年)が、昨年12月から今年1月にかけて行われた2019年度冬期ドイツ語技能検定試験(以下独検)1級に1位で合格した。独検は日本の団体が主催している唯一のドイツ語検定試験。

1級の成績優秀者は、1次試験と2次試験の得点合計により順位が決まる。2019年度は219名が受験し、合格率は20.55%だった。その中で、澤田さんは見事1位となった。合格しての感想を伺うと「合格したことが分かったときは、素直に嬉しかったです。これだけでも十分すぎるくらいでしたが、しばらくして1位での合格だったと通知が来たときは本当に驚きました」と笑みを浮かべた。

最後に「語学は根気強く学びつづけることが重要だと感じました。また、今回は同じ級を受けた友人がいました。同じ目標を持って勉強している人がいることは、モチベーションの面でも大きく影響すると思います」と語った。

(学生記者／初澤)



OB・OG学内訪問会を実施しました

2月8日、キャリアセンターは3年生を対象に「OB・OG学内訪問会」を開催した。これは、これから就職活動を本格的に始める学生に対して、企業等に勤めている卒業生が実体験に基づいたアドバイスを行うことを目的に、毎年同時期に実施しているもの。今年は、学生約150名、様々な業界から卒業生29名の参加があった。

主催したキャリアセンターの遠藤良雄課長は「在学生は、就職活動支援に熱心な卒業生から直接自己PRに対する指導を受け、その後それぞれの企業・団体に現在活躍する社会人の立場から業界、仕事内容など様々な生の声を聞くことができ、大変有意義な機会になった。今後、本格化する就職活動に自信をもって乗り切れると確信している」と語った。

参加した梅原朱里さん(交4年)は「他の学生もいる中で自己PRを披露したので、集団面接の練習にもなった。社会人の方に指摘された点を改善し、自己分析をさらに進めていきたい」と感想を述べた。



硬式野球部 高知県宿毛市でキャンプ実施

硬式野球部は2月14日から26日までの13日間、高知県宿毛市^{すくも}でキャンプを行った。首都大学野球春季リーグ戦に向けた同市でのキャンプは2016年より実施しており、今年で5回目。

2月14日には宿毛市野球場で歓迎セレモニーが行われ、岩本昌彦宿毛市副市長から歓迎の挨拶があった。特産品の文旦、プリヤスポーツドリンクが硬式野球部員に贈られたほか、高知県と宿毛市から計45万円の助成金が贈られた。部員は温暖な気候のもと練習に専念し、当初予定した練習メニューを順調に消化した。

主将の伊藤彰伸さん(律4年)は「今回のキャンプでは恵まれた環境の中、厳しい練習をこなし、各々が技術を向上させることができました。たくさんのご支援を頂いた宿毛市の方々に、結果で報いるよう、リーグ戦に挑みます」と思いを語った。

硬式野球部は「革新」をスローガンに掲げ、2015年春以来の1部昇格を目指している。



学友会団体が特別支援学校でパフォーマンス披露

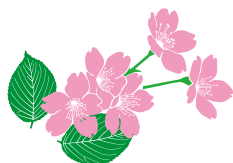
2月6日、管弦楽部が埼玉県立草加かがやき特別支援学校で生徒に演奏を披露した。同校から「普段なかなかコンサートや演奏会に行く機会がない子どもたちに、生の音楽を聴かせたい」との依頼があり、管弦楽部が地域交流の一環として実施した。

当日、部員は「夢をかなえてドラえもん」や「パプリカ」などを演奏。生徒たちは演奏に合わせてダンスをするなど、盛り上がりを見せていた。参加した部員は「生徒の笑顔から寒さを忘れるくらいの元気をもらうことができた。これからも地元の方に聞いてもらう機会を大切にしていきたい」と語った。

この他にも、2月10日に合気道部、2月13日には混声合唱部が同校でパフォーマンスを披露した。



新人事(4月1日付)



新任の専任教員の紹介



1 最終出身校 2 主な担当科目 3 ひとこと



常石 史子
(つねいし・ふみこ)
外国語学部
ドイツ語学科
准教授

- 1 東京大学大学院
- 2 ドイツ語圏のメディア文化、ドイツ語圏芸術・文化概論 他
- 3 外国語を学ぶことで日本語の力も磨き、伝える力と伝える中味を自分のものに。一生ものの財産になるはずです。



伊藤 兵馬
(いとう・ひょうま)
外国語学部
英語学科
専任講師

- 1 獨協大学大学院
- 2 Global Studies 1、英語専門講読 他
- 3 地球規模の諸課題について共に考え、学んでいきましょう。Let us try and create a sustainable world together.



熊木 淳
(くまき・あつし)
外国語学部
フランス語学科
専任講師

- 1 リヨン高等師範学校
- 2 フランス芸術文化各論、フランス芸術文化講読 他
- 3 外国語を学習することでいかに思考が言語に支配され、また言語が思考と関係なく変化するかを学びましょう。



土川 孝
(つちかわ・たかし)
外国語学部
交流文化学科
特任教授

- 1 神戸大学
- 2 航空事業論、ツーリズム政策論、English for Business 他
- 3 長年の実業界の経験に基づき、皆さんのこれからのキャリア形成に役立つ授業ができたと思います。



野上 文子
(のがみ・あやこ)
外国語学部
交流文化学科
特任講師

- 1 聖徳大学大学院
- 2 メディア英語、通訳案内士の英語、観光英語 他
- 3 獨協大学の卒業生です。皆さんと一緒に学べることを楽しみにしています。



平田彩奈恵
(ひらた・さなえ)
国際教養学部
言語文化学科
専任講師

- 1 早稲田大学大学院
- 2 日本文学作品研究 他
- 3 変わらないものだと思うかもしれませんが、実は常に「変化」している古典。現代人として、その読みを共に考えましょう。



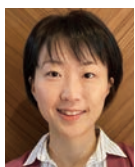
堀川 宏
(ほりかわ・ひろし)
国際教養学部
言語文化学科
専任講師

- 1 京都大学大学院
- 2 古典ギリシア語、文化史入門 他
- 3 古代から続く人間の文化について、これから一緒に学んでゆきましょう。世界が大きく広がるはずですよ。



高 恩淑
(こう・うんすく)
国際教養学部
言語文化学科
特任准教授

- 1 一橋大学大学院
- 2 日本語教育概論、教育教材論 他
- 3 学習者の目線に合わせた日本語教育法とは何かを共に考えていきましょう。



齋藤 雪絵
(さいとう・ゆきえ)
国際教養学部
言語文化学科
特任准教授

- 1 テンプル大学大学院
- 2 英語ライティング、専門講読、英語教科教育法 他
- 3 学生の皆さんが積極的に発言できる授業を目指します。英語を通して、将来の可能性を一緒に広げていきましょう。



山本 裕
(やまもと・ゆう)
経済学部
経済学科
准教授

- 1 慶應義塾大学大学院
- 2 社会経済史、日本社会史 他
- 3 私達の社会経済領域における「当たり前」はいつから「当たり前」になったのか。過去をも視野に入れて、共に「現在」を考えていきましょう。



松本 守
(まつもと・まもる)
経済学部
経営学科
准教授

- 1 九州大学大学院
- 2 経営財務論、経営学 他
- 3 経営現象に潜む複雑な因果関係を少しずつ解きほぐしながら、少しでも真理に近づきたいと思っています。



松枝 秀和
(まつえだ・ひでかず)
経済学部
国際環境経済学科
教授

- 1 名古屋大学大学院
- 2 地球環境論 他
- 3 気候変動と向き合う地球環境学を共に学びながら、大自然を探索の科学の楽しさを伝えたいと思います。



安原 陽平
(やすはら・ようへい)
法学部
法律学科
准教授

- 1 早稲田大学大学院
- 2 教育法 他
- 3 教育をめぐる諸問題について、教育法学を通じてみなさんと一緒に考えていければと思います。よろしくお願いします。



BHATTA BAIKUNTHA
(バッタ・バイクンタ)
法学部
国際関係法学科
特任助教

- 1 神奈川大学大学院
- 2 Academic Reading, Academic Listening, Academic Writing 他
- 3 Learning is all about having courage to begin something, and having determination to continue to challenge. 頑張ろう!

2019年度秋学期 「学生による授業評価アンケート」実施報告

【実施概要・調査方法】

2019年度秋学期から「学生による授業評価アンケート」は、紙媒体からPorTaIIでの実施に移行しました。実施は、原則、第13回目あるいは第14回目の授業日(最終授業日)(12月17、18、23日、1月8～11、14、16、17、20、25日)の指定クラスにて教員から学生への指示の下で行いました。指定クラスを履修していない学生や欠席者などに対しては、1月8日～2月10日の間に授業時間外で各自アンケートに回答するようPorTaII個人向け掲示板、電子メール、学内掲示により呼びかけました。授業での実施を第14回目の最終授業だけでなく、第13回目に分散・拡大した最大の理由としては、PorTaIIの同時アクセス数制限によりログインできない学生を可能な限り少なくするためでした。

アンケートはアンケートA(選択式)とアンケートB(自由記述)の方式をとり、アンケートAでは授業ごとに「学生の出席状況」「授業に関する5項目の質問」「授業の問題点」について選択肢を設けました。アンケートBでは学生からの要望・意見を記述式で求めました。

また、回答者の授業評価が一定以上出席した上での判断であるかどうかを把握するために出席状況を確認し、「24%以下」「ほぼ全回欠席」と回答した学生に対しては、低出席の理由を回答する選択肢を設けました。

【集計方法】

アンケートAは授業ごとの満足度をコンピュータで集計しました。アンケートBは学科・学年・出席状況の入力と、自由記述部分は回答者が入力した原文をそのままコンピュータで集計しました。なお、集計の際には学生個人を特定するデータは一切含まれておりません。

【結果の報告】

アンケートAおよびアンケートBの集計結果については、2月19日から各教員は各自の担当科目についてPorTaIIで閲覧可能となっています。

また、各教員に授業形態別「全学平均」が確認できる資料(9ページ掲載と同内容の資料)を配付しました。これは、各教員が自分の授業の評価の位置付けを把握できるようにするためであり、資料では学生に尋ねた「授業に関する5項目の質問」について「そう思う＝1.5」「ややそう思う＝0.5」「あまりそう思わない＝－0.5」「そう思わない＝－1.5」「わからない＝0」として評価指数を算出し、授業形態別「全学平均」(表3)と比較しました。

アンケートAおよびアンケートBとも回答者が特定できないようにシステム設計されております。

【今後の方針】

授業評価アンケートにより、教員は学生の授業に対する評価・感想・要望などを知ることができ、授業計画の修正や、授業方法の改善を図ることができます。授業評価アンケートは学生の意見をとり入れながら授業の質や教育効果を高めていく手段として重要なものです。

本学では各教員より寄せられるアンケート結果に対するフィードバックを公表する制度(※)を継続して実施しております。授業に対する教員・学生の理解が互いに深まり、よりよい授業が展開されるよう取り組んでいきたいと考えています。

(自己点検・評価室)

※フィードバック公表制度について：各教員から任意に寄せられたフィードバックには、授業の評価結果に対する①項目別の納得度および項目別の意見・感想、②全体の納得度、③全体の意見・感想が記されています。これらは、PorTaIIにて当該科目の受講生限定で3月10日から随時公表しております。また、アンケートAの集計結果は、紙媒体により学内3か所(図書館、教務課、学友会総務部長室)で公表しております。

●「学生による教育環境改善のためのアンケート」の結果については大学ニュース7月号でお知らせします。

【アンケート結果について(授業評価部分)】

2018年度秋学期は、紙媒体でアンケートを実施しております。そのため、2019年度秋学期との厳密な比較はできませんが、参考として比べております。

講義 各項目における＜そう思う＞＜ややそう思う＞の割合は合わせて83%以上である。各項目の評価指数は、他の授業形態(「外国語」、「演習」、「体育」)と比較して最も低い。昨年度との比較では、全ての項目において、＜そう思う＞＜ややそう思う＞の割合が増加し、＜そう思わない＞＜あまりそう思わない＞の割合が同じあるいは減少している。

外国語 各項目における＜そう思う＞＜ややそう思う＞の割合は合わせて87%以上である。各項目の評価指数は、授業形態別では「講義」より高く、「演習」、「体育」より低い。昨年度との比較では、全ての項目において、＜そう思う＞＜ややそう思う＞の割合が増加する一方、「1.この授業の目標設定と内容は適切であった」「2.この授業の担当教員の説明はわかりやすかった」の項目において、＜そう思わない＞＜あまりそう思わない＞の割合も増加している。

演習 各項目における＜そう思う＞＜ややそう思う＞の割合は合わせて94%以上である。各項目の評価指数は、他の授業形態(「外国語」、「演習」、「体育」)と比較して最も高い。昨年度との比較では、全ての項目において、＜そう思う＞＜ややそう思う＞の割合が増加する一方、「4.この授業の難易度・進度は自分にとって適切であった」、「5.この授業の担当教員は学生の質問や要望に応えた」の項目において、＜そう思わない＞＜あまりそう思わない＞の割合も増加している。

体育 各項目における＜そう思う＞＜ややそう思う＞の割合は合わせて89%以上である。各項目の評価指数は、授業形態別では「講義」、「外国語」と比較して高く、「演習」よりは低い。昨年度との比較では、「5.この授業の担当教員は学生の質問や要望に応えた」以外の項目において＜そう思う＞＜ややそう思う＞の割合が増加する一方、＜そう思わない＞＜あまりそう思わない＞の割合も増加している。

低出席者における低出席理由について 昨年度との比較では、「演習」以外の授業形態において「授業内容に不満」が増加しており、特に外国語と体育は、4年度連続で増加している。

2019年度秋学期「学生による授業評価アンケート」全体集計結果

2019年度秋学期「学生による授業評価アンケート」の授業形態別(講義・外国語・演習・体育)の全学的な平均値を報告します。

実施状況

1 授業形態別 出席状況(全学平均)		単位 %							
項 目	選択肢	講 義		外国語		演 習		体 育	
		19秋学期	18秋学期	19秋学期	18秋学期	19秋学期	18秋学期	19秋学期	18秋学期
出席状況	100—75%	72.6	69.8	87.3	86.3	86.0	86.2	77.6	77.7
	74—50%	16.4	16.6	9.6	8.5	11.0	8.9	10.8	10.4
	49—25%	5.8	7.0	1.2	1.4	1.6	1.8	2.4	3.2
	24%以下	2.1	1.8	0.5	0.7	0.6	0.5	3.0	3.2
	ほぼ全回欠席	3.1	3.3	1.5	1.4	0.8	0.5	6.2	4.6
	不明(未記入)	0.0	3.1	0.0	2.5	0.0	3.7	0.0	1.8

	対象者数	回収数	回収率
19秋学期	8,434	4,583	54.34%
18秋学期	8,598	5,764	67.04%

2 授業形態別 低出席者率・理由(全学平均)		単位 %							
項 目	選択肢	講 義		外国語		演 習		体 育	
		19秋学期	18秋学期	19秋学期	18秋学期	19秋学期	18秋学期	19秋学期	18秋学期
低出席者率		5.1	5.0	1.9	2.1	1.4	1.1	9.2	7.8
低出席理由	授業内容に不満	22.6	18.9	35.3	31.9	0.0	7.9	16.4	11.4
	必修科目外	28.1	28.2	12.1	8.6	10.5	10.5	45.5	41.4
	アルバイト	14.3	13.7	9.8	14.1	5.3	15.8	20.0	12.9
	就職活動	9.9	9.0	7.9	3.6	50.0	23.7	3.6	11.4
	クラブ・サークル	3.5	3.9	4.2	2.2	2.6	2.6	3.6	7.1
	不明(未記入)	29.6	30.2	36.3	42.9	39.5	50.0	29.1	25.7

注1:「低出席者率」とは、出席状況「24%以下」「ほぼ全回欠席」を選択した人の率を指しますが、回答者の評価がその授業に一定程度出席した上での判断かどうかを把握するための作業上の基準であり、履修上必要な最低限の出席頻度を意味するものではありません。

注2:複数回答可。値は低出席者数における回答数で表したものです。

4 授業形態別 授業の問題(全学平均)		単位 %							
項 目	選択肢	講 義		外国語		演 習		体 育	
		19秋学期	18秋学期	19秋学期	18秋学期	19秋学期	18秋学期	19秋学期	18秋学期
授業の問題	テキストや教材が適切でない	1.8	0.9	3.0	1.8	0.4	0.1	0.3	0.1
	宿題・課題が適切でない	1.2	0.7	2.7	1.5	0.7	0.2	0.0	0.1
	板書が見えにくい	4.7	2.4	1.8	1.2	0.4	0.1	0.2	0.0
	教員の話が聞き取りにくい	4.6	2.6	3.5	2.2	0.4	0.2	0.2	0.6
	学生の私語が多い	2.5	2.2	2.2	1.3	0.7	0.4	0.7	0.4
	未提示休講がある	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.0	0.3	0.1
	教員の遅刻・早退が多い	0.6	0.6	1.1	0.9	0.7	0.2	0.2	0.1
	その他	1.0	0.7	1.1	0.9	0.6	0.3	2.5	0.3

注:複数回答可。値は回収数に対する回答数で出したものです。

3 授業形態別 授業評価(全学平均)		単位 %							
項 目	選択肢	講 義		外国語		演 習		体 育	
		19秋学期	18秋学期	19秋学期	18秋学期	19秋学期	18秋学期	19秋学期	18秋学期
1. この授業の目標設定と内容は適切であった	そう思う	60.6	52.6	67.7	61.3	82.0	76.8	79.8	76.9
	ややそう思う	27.3	33.8	23.0	28.7	14.9	19.3	11.8	14.7
	あまりそう思わない	6.1	6.5	5.1	5.2	1.7	1.8	2.5	2.2
	そう思わない	2.4	2.1	2.6	2.2	0.5	0.4	1.2	0.4
	分からない	3.5	5.0	1.6	2.5	0.8	1.6	4.7	5.8
	評価指数(ポイント)	1.0	0.9	1.1	1.0	1.3	1.2	1.2	1.2
2. この授業の担当教員の説明はわかりやすかった	そう思う	55.9	49.0	64.6	58.8	82.1	76.9	79.2	74.1
	ややそう思う	28.0	33.4	23.6	28.5	14.9	19.0	12.1	16.7
	あまりそう思わない	8.8	9.1	6.9	6.8	1.9	1.9	2.7	2.3
	そう思わない	3.8	3.5	3.3	3.3	0.4	0.5	1.2	0.7
	分からない	3.5	5.0	1.5	2.5	0.7	1.7	4.9	6.2
	評価指数(ポイント)	0.9	0.8	1.0	0.9	1.3	1.2	1.2	1.2
3. この授業は知的関心・教養を高めたり、専門的知識・技能を身につける上で役立った	そう思う	58.3	50.6	65.8	58.9	83.1	77.5	77.6	71.6
	ややそう思う	28.0	33.6	23.9	29.5	14.0	18.7	12.3	17.3
	あまりそう思わない	7.6	8.1	5.8	6.3	1.6	1.9	3.4	3.4
	そう思わない	2.8	2.7	2.8	2.8	0.5	0.5	2.0	1.2
	分からない	3.4	5.0	1.7	2.6	0.7	1.5	4.7	6.4
	評価指数(ポイント)	0.9	0.8	1.0	1.0	1.3	1.2	1.2	1.1
4. この授業の難易度・進度は自分にとって適切であった	そう思う	55.1	47.9	62.4	56.4	77.4	75.0	78.3	72.2
	ややそう思う	28.9	34.3	24.8	29.7	17.5	19.7	11.8	17.2
	あまりそう思わない	8.6	9.1	7.5	7.7	3.1	2.8	2.9	3.4
	そう思わない	3.6	3.5	3.7	3.6	1.1	0.8	2.5	1.1
	分からない	3.7	5.2	1.7	2.6	1.0	1.8	4.5	6.0
	評価指数(ポイント)	0.9	0.8	1.0	0.9	1.2	1.2	1.2	1.1
5. この授業の担当教員は学生の質問や要望に応えた	そう思う	58.0	49.9	67.9	60.5	83.9	77.6	78.5	74.1
	ややそう思う	27.4	33.4	22.0	28.1	12.9	18.4	10.8	15.6
	あまりそう思わない	6.9	7.6	5.3	5.3	1.6	1.5	3.2	2.2
	そう思わない	2.9	2.7	2.7	2.8	0.6	0.5	2.2	1.1
	分からない	4.7	6.5	2.1	3.3	0.9	2.0	5.4	7.0
	評価指数(ポイント)	0.9	0.8	1.1	1.0	1.3	1.2	1.2	1.2

個人情報保護に関する獨協大学の取り組みについて

獨協大学では、個人情報の保護に関する法律(平成15年法律第57号)、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律(平成25年法律第27号)や関連のガイドラインを遵守しながら、学生及び学生の保証人の個人情報を取扱う場合に生じる人権侵害から個人を保護するために、「個人情報の保護に関する規程」「個人番号及び特定個人情報の取扱いに関する規程」を定め、個人情報の適正な収集、利用、管理及び保存を図り、本学での個人情報の取扱いに伴う本人の権利、利益及びプライバシーの保護に努めています。

1. 対象とする個人情報について

獨協大学の「個人情報の保護に関する規程」において対象としている「個人情報」とは、生存する個人に関する情報であって、本学の学生(オープンカレッジ受講生を含む)、卒業生その他在籍した学生の情報、学生の保証人の情報をいいます。個人の氏名が記載されている情報だけでなく、他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができるものや、マイナンバー(個人番号)や音声などの個人識別符号も含みます。また「個人データ」とは、学生の個人情報などを電子ファイル化などにより検索できるように体系化したもので、本学が組織的に保有している個人情報データベースを構成する個人情報をいいます。また、平成29年の法律改正に伴い、新たに加わった個人情報として「要配慮個人情報」があります。「要配慮個人情報」とは、本人の人種、信条、社会的身分、病歴、犯罪により害を被った事実その他本人に対する不当な差別や偏見などの不利益が生じないように、その取扱いに特に配慮を要する個人情報をいいます。

2. 利用目的の特定

学生及び保証人の個人情報は、以下のとおり、本学の教育研究及び学生支援に必要な業務を遂行するために利用します。また、卒業後に大学及び同窓会からの連絡、各種証明書の交付のために利用することがあります。

(1) 学生の個人情報の利用目的

入学関係: 入学志願者に対する選抜試験運営、入学手続き(編入学、再入学を含む)、大学案内送付

学修関係: 学生証交付、履修相談・学修指導、学業奨励、履修登録、教職等諸資格課程登録、授業・試験運営、学修支援、成績処理、単位認定、進級・卒業判定、諸資格判定、学位授与、協定校単位互換による履修、長・短期海外留学、国際交流

学籍関係: 休学・復学・退学・除籍手続、転学部・転学科手続

学生生活: 学生生活全般にかかわる指導・助言、福利厚生施設の紹介、奨学生選考、修学支援新制度選考、奨学金交付・償還、定期健康診断、日常的な健康相談、カウンセリング、課外活動支援、慰労、災害見舞

進路関係: キャリア(進路)形成支援、求職登録、就職斡旋、資格取得のための課外講座運営

施設等利用: 図書館、情報インフラ・ネットワーク、教室、体育施設等

その他: 各種連絡・通知、諸証明書発行、用具・備品等の貸与、学則による賞罰、授業料納入処理、一般社団法人獨協大学同窓会の要請による案内(同窓会入会、学生総合保険加入、海外旅行傷害保険加入、卒業アルバム写真撮影及び配布)、獨協大学父母の会・学生会支援事業運営

(2) 保証人の個人情報の利用目的

学生の学修指導等に必要な連絡。各種送付物(大学ニュース、学業成績通知書、学費納付書、大学行事案内、特別講座への参加案内、大学を後援していたためのご依頼、学生向けの送付物で確実に受領される必要のある案内、一般社団法人獨協大学同窓会・獨協大学父母の会・校友会・獨協大学教職員組合からの案内)の発送。

3. 適正な収集・利用目的の通知等

(1) 適正な収集

個人情報の収集は、学生本人から、適正かつ公正な手段により収集します。なお、思想、信条及び信教に関する事項並びに社会的差別の原因となる事項等の調査を目的とした個人情報の収集は行いません。また、要配慮個人情報の収集を行う場合には、原則として、あらかじめ学生本人の同意を得た上で収集します。

なお、本学はその教育課程において、学生の個人データに、成績、健康管理、課外活動などの情報を付加したものをデータベース化し、「保有個人データ」としています。

(2) 利用目的の通知等

個人情報を収集した場合は、あらかじめその利用目的を公表している場合を除き、その利用目的を本人に通知し、又は公表します。また、利用目的を変更した場合は、変更した利用目的について、本人に通知し、又は公表します。

なお、本学の各窓口において申請手続が行われる場合には、目的外利用を行わない旨の通知を掲示物で表示することで、本人に公表したものとみなしています。

(3) 目的外利用等

学生、保証人から収集した個人情報をやむを得ず前述の利用目的以外に利用した場合は、その旨及び内容を速やかに本人及び個人情報保護管理者(学長)に書面により通知します。なお、目的外利用は必要な場合のみ限定的に行うこととしています。

4. 個人データの第三者への提供

本学では、あらかじめ本人の同意を得た上で、学生の個人データを以下のとおり第三者に提供することがあります。

また、これ以外に提供の必要性が生じた際には、その都度、本人への意思確認を行います。

なお、本学は、学生の在学時及び卒業後のきめ細かなサービス提供のため、学生及び保証人の個人データに関して、一般社団法人獨協大学同窓会と共同利用させていただいています。

(1) 学生の学業成績等、学修状況を学生の保証人に提供する場合

本学では、保証人(ご父母等)と連携した個別学修指導を教育上有用な取

組みと考えており、学期末の成績が確定した段階で保証人宛に「成績通知表」を送付し、学修状況に関する問い合わせや相談等に応じています。また、父母懇談会においても、学生の単位修得状況や進級・卒業条件の充足度などを保証人の皆様に提示しながら、学生の進学や就職、学生生活に関して個別面談を行っています。

「個人情報の保護に関する規程」に基づき、学生本人が同意しない場合、原則として当該学生の学業成績等、学修状況に関する情報を保証人にお伝えすることができませんが、本学では学生本人から「保証人への成績開示の停止申請書」の提出がなければ、保証人への成績開示について同意があったものとみなします。なお、入学後に学生本人からの求めに応じて、保証人への成績開示を停止することは可能です。

(2) 学生の名簿を作成、開示する場合

本学では、原則として学生の個人データを第三者に提供することはありません。ただし、以下の教育指導、学生交流、卒業生交流などの場合に、請求者の安全管理体制を確認し、あらかじめ本人の同意を得て第三者に提供することがありますが、健康診断等の結果などの要配慮個人情報については、原則として提供しません。

① 教育指導

外国語教育などにおけるe-ラーニング、検定試験及び実務実習などにおいて、公共機関や学外の関連業者に教育を委託する場合。

② 校友会及びクラブ活動

学生の指導、相互交流を図るための課外活動において必要なときに、指導教員又は担当事務局が責任を持って管理することを条件に、学生氏名、学籍番号、連絡先のリストを作成する場合。

③ 同窓会活動及び同窓会の経営する株式会社デュオの営業

本学の同窓会である一般社団法人獨協大学同窓会の諸活動(会員名簿の管理、会報の発行及び発送、支部の運営、在学生支援、卒業アルバム製作及び配布)並びに同窓会が学内において支援サービスのため設立している株式会社デュオの業務(学生総合保険、海外旅行傷害保険、書籍販売、旅行斡旋、不動産紹介、印刷請負)実施のため必要な場合。

④ ゼミ、クラス及び校友会、クラブ活動における卒業生同士の会合

大学を卒業、中退した者が相互の懇親のための会合を持つ場合等で、一般社団法人獨協大学同窓会又は所属した指導教員から文書による依頼があった場合。なお、必要に応じて、本学又は同窓会が代行して本人の意思確認を行うことがあります。

5. データ内容の正確性の確保及び安全管理措置

本学は、個人情報の安全性及び信頼性を確保するため、当該個人情報を最新の状態に保つよう努め、漏えい、滅失、き損及び改ざんの防止に関し、必要な措置を講じます。

本学が個人情報の取扱いの全部又は一部を外部委託する場合は、当該個人情報の適正な取扱いに関して契約書等で内容を明確にした上で、委託業者に対する必要かつ適切な監督を行います。

6. 開示・訂正・利用停止要求等

(1) 開示

学生本人から、当該学生が識別される保有個人データの開示を書面又は口頭により求められたときは、身分証明書等により本人確認を行った上で、当該保有個人データを開示します。ただし、開示請求に係る保有個人データについて開示しないことが相当であると判断されるときは、当該保有個人データの全部又は一部について開示しないことがあります。その際には、本人に対して、開示しない理由を書面により通知します。

(2) 訂正等

学生本人から、当該学生が識別される保有個人データの内容が事実でないという理由によって、当該保有個人データの内容訂正、追加又は削除を求められたときは、利用目的の達成に必要な範囲内において、必要な調査を行い、その結果に基づき、当該保有個人データの訂正等を行います。

(3) 利用停止等

学生本人から、当該学生が識別される保有個人データの収集、利用及び提供が「個人情報の保護に関する規程」に違反しているという理由によって、当該保有個人データの利用停止又は消去を求められたときには、必要な調査を行い、その求めに理由があることが判明した場合に、違反の是正に必要な限度かつ本学の対応が可能な範囲で、当該保有個人データの利用停止又は消去を行います。

7. 管理、組織体制

個人情報保護管理者(学長)は、本学における個人情報の適正な取扱い(収集、利用、提供、削除等)を司る責任を有します。個人情報維持管理者(各学部長、付属機関の長など)は、その所管する業務の範囲内における個人情報の収集及び維持管理に関し、「個人情報の保護に関する規程」の定めに従い、適正に取り扱う責任を有します。個人情報情報管理者(施設事業部長)は、情報システムにおける個人データを適正に管理運用する責任を有します。また、本学の個人情報の保護に関わる重要事項を審議するため、個人情報保護委員会(事務所管・総務課)を設置しています。

感染症について 〈保健センター〉

学校保健安全法および学校保健安全法施行規則に定める下記の感染症にかかった場合、または疑いのある場合には、登校せず速やかに近隣の主治医または医療機関で診察を受けてください。
 ⇒その結果、感染症と診断された場合は、直ちに保健センター（048-946-1944）に電話連絡をしてください。
 詳細はHPをご覧ください。

学校保健安全法施行規則第18条に規定される感染症

第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。）中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。）及び特定鳥インフルエンザ（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）COVID-19（新型コロナウイルス）
第2種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く。）、百日咳、麻疹（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風疹（三日はしか）、水痘（水ぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第3種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎 その他の感染症 ⇒ 感染性胃腸炎（ノロウイルス等による）・溶連菌感染症・マイコプラズマ肺炎等

自分でできる感染予防

- ① 予防接種が推奨されている病気（麻疹・風疹・流行性耳下腺炎など）でまだかかったことがなく予防接種を受けていないものがある場合は保護者・医療機関と相談の上、予防措置をとる
- ② 咳が続く時や体調不良、発熱時（37.5度以上）には、早めに医療機関を受診する
- ③ うがい・手洗いの習慣を身につける
- ④ 規則正しい生活をする
- ⑤ 十分な睡眠時間と栄養バランスのよい食事を心がける
- ⑥ 流行時期は、人ごみを避ける
- ⑦ 咳が出ている時はマスクを着用する

覚えておこう！ AED（自動体外式除細動器）の設置場所

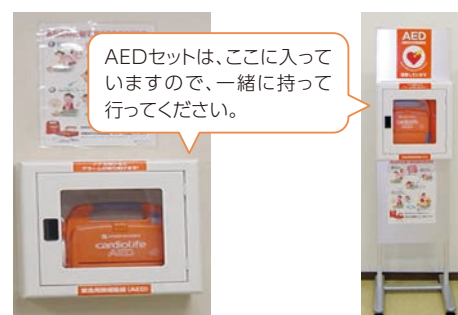
AED（自動体外式除細動器）とは、心臓がけいれんし血液を流すポンプ機能を失った状態（心室細動）になった心臓に対して、電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための医療機器です。2004年7月より医療従事者ではない一般市民でも使用できるようになりました。本学では、学内の22ヶ所に設置しています。いざという時にどこのAEDが一番近い判断できるように設置場所をしっかりと覚えておきましょう。

設置場所

- ・東棟 1階西エレベーター前
- ・東棟 2階東エレベーター前
- ・西棟 1階防災センター前壁面
- ・西棟 3階312教室前壁面
- ・4棟 1階男子トイレ側壁面
- ・6棟 1階エレベーター前
- ・天野貞祐記念館 1階正面入口付近
- ・天野貞祐記念館 3階エレベーター前
- ・中央棟 1階守衛所前
- ・中央棟 3階エレベーター前
- ・35周年記念館 2階学生食堂通路
- ・35周年記念館 アリーナ事務室受付
- ・35周年記念館 トレーニングルーム内
- ・学生センター 1階エレベーターホール横
- ・学生センター 2階トレーニングルーム内
- ・学生センター 4階エレベーターホール横
- ・学生センター 別館エントランスホール奥壁面
- ・グラウンド管理施設内
- ・東門守衛所内
- ・越谷グラウンドクラブハウス管理室内
- ・敬和館受付
- ・どく太くんバス内



設置形態の一例



キャンパス・セクシュアル・ハラスメント防止のために 〈キャンパス人権委員会より〉

全ての学生および教職員がお互いに人格を尊重し、快適な環境のもとで勉学、教育・研究、職務を遂行するために、大学においてセクシュアル・ハラスメントは絶対にあってはならないことであり、未然に防止することが重要です。本学では「キャンパス人権委員会」を設け、相談員を配置し学生や教職員の相談に応じ、またセクシュアル・ハラスメント行為防止の啓発活動を行っています。

Q セクシュアル・ハラスメントの被害を受けたら、まず何をすべきですか？

A ひとりで悩んでいても決して良い結果は出ません。キャンパス人権委員に連絡をとってください。どの委員に連絡をとってもかまいません。直接会うか、電話、メール、手紙を利用して下さい。学生課、カウンセリングセンターも相談を受け付けます。

Q どのような救済措置がとられるのですか？ またプライバシーは守られますか？

A キャンパス人権委員が相談を受け付け、助言をしながら、人権委員会において最善の解決策を探ります。被害の状況によっては、学長は行為者に対し、厳正な処分を講じます。なお、相談等を受ける際、相談内容等において、個人のプライバシーを厳守します。

セクシュアル・ハラスメント防止に関するホームページ
<https://www.dokkyo.ac.jp/about/compliance/harassment>

キャンパス人権委員会委員		E-mail:jinken@ml.dokkyo.ac.jp	
氏 名	所 属	研究室/事務室 電話番号	メールアドレス
上野 直子	外国語学部教員	048-943-1185	naoueno70@dokkyo.ac.jp
岡田 順太	法学部教員	048-942-6067	junta@dokkyo.ac.jp
齋藤 哲	国際教養学部教員	048-946-1743	k09015@dokkyo.ac.jp
高松 和幸	経済学部教員	048-942-8167	ktakamat@dokkyo.ac.jp
徳永 光	法学部教員	048-946-1759	hkr-tokunaga@dokkyo.ac.jp
高野 一人	教育研究推進課職員	048-946-2033	takano_kazuhiro@stf.dokkyo.ac.jp
野村 高彦	教務課職員	048-946-1664	nomura_takahiko@stf.dokkyo.ac.jp
林 郁恵	図書館事務課職員	048-946-1804	hayashi_ikue@stf.dokkyo.ac.jp
若林 美奈子	大学院事務室事務課職員	048-946-1721	wakabayashi_minako@stf.dokkyo.ac.jp

※50音順。変更がある場合は、その都度ホームページでお知らせします。
 ※「キャンパス・セクシュアル・ハラスメント相談ガイド」リーフレットを配布していますのでご覧ください。



獨協大学ニュース 学生記者募集

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

学生記者は「獨協大学ニュース」の編集に携わるのが主な仕事です。

校内のイベントや部活動、毎年6月、11月頃に行われる学園祭「創造祭」、「雄飛祭」などの取材を行います。卒業生や地域で活躍している方へ取材に行くこともあります。普段の大学生活ではできない、学生記者ならではの経験ができるのではないかと思います。

記事を書くことや写真に興味がある方(特に1・2年生)は、ぜひ説明会にお越しください。

説明会開催：日時、場所は、後日
PorTaIIにて告知します。

対象：学部生(1～4年生)

問合せ：kouhou@stf.dokkyo.ac.jp

表紙の施設

CLEAS(クレアス)

2019年3月28日、中央棟1階にオープンした自律学習支援スペース「CLEAS(クレアス)」は、学生の皆さんが自律的に、そして主体的に学ぶための「場」として開設されました。CLEAS専用の貸出ノートPCやグループワーク席、マルチメディア対応PC、モノクロとカラーの認証プリンタ、A0サイズまで印刷できる大判カラープリンタ等を備えています。常駐のサポートスタッフによる支援体制も整っており、PC操作や動画編集の無料講習会も受講できます。受付カウンターまでお気軽にご相談ください。

撮影協力：関家理佳さん(環4年)／内藤智也さん(英4年)
(2019年 ミス・ミスター獨協コンテストファイナリスト)



ぶらりらいぶらり Vol. 94

新学期は図書館へ

入学・進級おめでとうございます。新たなスタートの季節ですね。
知りたいことがあるとき、ほっと一息つくたいとき、図書館を利用してみませんか。

●どうやって入るの？

図書館があるのは天野貞祐記念館の西側ゾーン。1～3階に入館ゲートがあります。駅の改札と同じように、学生証をかざして入ります。

●資料を借りるには？

学生証があれば借りられます。借りたい資料を持って1・3階のカウンターに来てください。本・雑誌(最新号を除く)・CDが借りられます。1階には自動貸出機もあります。

●図書館の資料を探すには？

図書館の資料は約98万冊。書庫に入っている資料もあるので、PCで「蔵書検索(OPAC)」を使って資料を探します。資料探しで困ったときは、「レファレンスカウンター」で相談できます。

●もっと図書館に詳しくなりたい！

春限定の「図書館スタンプラリー」に参加してみよう。図書館内に置いてあるマップを手に、好きな時間に自由に館内を回ってスタンプを集めていくセルフツアーです(全部集めたら獨協グッズをプレゼント)。回り終わったときには、きっと図書館の新たな魅力に気付くはず。

他にも、レポート作成に役立つDVDの上映会や書き方講座、データベースガイダンスなど、この春限定のイベントを開催します。ぜひご参加ください。

詳しくは図書館ホームページや図書館ガイダンス案内のチラシをご確認ください。



3階には語学学習に役立つ資料が多数。



レポート作成で大活躍するPC設置席。

編集 総合企画部(中央棟2階) TEL048-946-1635 kouhou@stf.dokkyo.ac.jp

学生記者 [五十音順]	伊藤 あす美(国関法2年)	宇野 季咲良(営4年)	遠藤 夏乃(済2年)	遠藤 瑞稀(言4年)
	川上 徹也(環3年)	窪田 実優(英4年)	越川 響(律4年)	小林 優麻(律3年)
	高橋 弘行(済2年)	土屋 香奈(英4年)	名取虎之介(言4年)	初澤 汐里(独3年)
	深見 勇斗(国関法4年)	古田 千夏(独3年)	保科 南実(交4年)	目谷 望実(営4年)

